

志望理由書作成

面接・自己PRまでこの一冊でOK！

志望理由書は、総合型選抜・学校推薦型選抜の最重要ポイントであり、面接や自己PRなどの出発点です。本書でポイントを押さえて完成させましょう。

本書の構成と使い方

基本編

総合型選抜・学校推薦型選抜についての基礎知識の確認です。ポイントはアドミッション・ポリシー（AP）と募集要項の内容をつかむことです。また、「なぜそこで学びたいのか」についての主なポイントを確認するために、最初のワークシートを作成します。

調査編

本書の中心。志望理由書に求められるのは「あなたにしか書けないこと」を「あなた自身のことばで書く」ことです。過去・現在・未来という時間の流れに沿って、内容を調査し、具体化します。ワークシートに記入しながら進めます。

完成編

調査編で作成したワークシートの中身を整理しながら、志望理由書にまとめ上げ、完成させます。ここでは、「まず結論」そして「順序立てて説明する」手順を確認し、求められたことが記されているかどうかチェックします。ここまでで、提出可能な状態に仕上げます。

面接・自己PR編

調査編での調査結果は、そのまま面接や自己PRにも使用可能です。面接については、志望理由書の内容をもとに、答える際のポイントを整理します。また、マナーもまとめます。自己PRについても、志望理由書との違いとポイントを整理します。

本書で使われる記号と指示する内容



重要

重要ポイント

きちんとおぼえておきたい重要な項目です。



記入

記入作業

実際に書き込んで練習する部分です。ワークシートのページも同じ。



調査

調査

質問する、資料を用意して調べるなどの作業を示す記号です。



質問

質問しよう！

先生や家族ほか、いろいろな人に質問し、取材して解決しましょう。



禁止

禁止事項

よくある失敗の事例です。くれぐれも注意してください。



ヒント



作例

ヒント/作例

作業や記入の手助けです。書き方の事例もあります。

作成の基本的な流れ

本書の主な部分は、次の手順で使ってください。

①読む

……面接に有効な知識や各回のねらいを理解しましょう。

②ワークシートにわかることを書き込む

……空欄があってもよいのでまず書く。

③要調査の内容をリスト化

……わからない点をリストにして準備する。

④リストにしたがって調査

……文書で、電話で、訪問して、調査する。

⑤調査結果をまとめる

……調査で手に入れた具体的な内容が志望理由書の素材です。

ワークシートは、それぞれかんたんなヒントや「作例」を用意してあります。

作例は、文系・理系、学部別にある程度幅広く掲載しています。また、優・良・可・不可のレベル別の場合もあります。※それぞれの記入例の設定はすべて架空のものです。

自信をもって大学に提出！

目次

基本編

総合型・推薦型入門	05
志望理由書は具体的に、もっと具体的に	06
志望理由書の Bad から Good	07
最初に自分を知る・次に相手を知る（長所と短所）	09
アドミッション・ポリシーを読む	11
アドミッション・ポリシーの要約と整理（ワークシート）	14
募集要項を読む	15
募集要項のまとめと注意点（ワークシート）	16

調査編

過去・現在・未来の調査	17
志望理由のスケッチ（ワークシート）	18
何を、どうやって調査するか	22
過去の調査と課題発見（ワークシート 1）	24
志望理由書に使われない!? 「調査結果」	35
現在の調査と課題発見（ワークシート 2）	36
いよいよ「大学」の調査（学部・学科から課外活動まで）	47
未来①（大学） 調査と課題発見（ワークシート 3）	50
最後に「職業」の調査	61
未来②（社会） 調査と課題発見（ワークシート 4）	62
オープンキャンパスに臨む	73
オープンキャンパス：準備と結果（ワークシート 5）	74
オープンキャンパスの諸注意	76

完成編

志望理由書をまとめる（ワークシートの整理）	77
調査結果のまとめ（ワークシート 6）	79
文書作成の諸注意	82
志望理由書作成	83
最後にもう一度確認すべきこと	88

面接・自己PR編

面接・自己PRの原理	89
面接マナーの基本と実践	90
面接での質問「トップ 10」	91
面接での解答内容を構成する	92
面接準備用シート	93
自己PRの考え方	96
自己PR 準備用シート	97
小論文の対処法	98
試験・面接「持ち物」チェックリスト	100

総合型・推薦型入門

志望理由書作成の基礎知識

基
本 編



そもそもどういうもの？

総合型選抜

大学独自の基準で行う多様な方法による選抜（旧AO入試）

受験生からの提出書類（エントリーシートなど）のほか、面接や論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式です。「学習意欲」「明確な目的意識」が選抜基準として重んじられます。選抜方法もその点が判断できるように設定されます。

2021年度から、各大学が実施する評価方法に、共通テストを含む教科・科目に関係するテストや小論文、プレゼンテーションなど、学力を確認する評価方法を活用することが必須となりました。かつての「AO入試」は学科試験免除というイメージもありましたが、現在はそうともいえない真の意味での「総合型」に近づいています。

学校推薦型選抜

いわゆる「推薦入試」・専願中心だが併願可能なケースも

出身高校長の推薦が必須です。また、「調査書の評定〇以上」「浪人は〇年まで」などの条件が設定されている場合もあり、誰でも出願できるとは限りません。

学校推薦型選抜は、大きく分けて「公募制」と「指定校制」の2種に分かれます。「公募制」は、大学の出願条件を満たし、出身高校長の推薦があれば出願できます。「指定校制」は、大学が指定した高校の生徒だけをを対象とします。こちらは私立大学が中心で、国公立大学ではほとんど行われません。

また、多くの大学では「合格した場合は必ず入学する」とされる「専願制」です。（近年、他大学との併願が可能な併願制も増えつつあります）。

選抜の種類を理解し、志望大学・学部がどのような方法を用いているか確認しよう。



最初に準備・チェックすべき2点

アドミッション・ポリシー

どのような学生を求めるのか？▶理念

大学は高校とは比べ物にならないくらい多様な教育機関です。そのため、求める人物像が学校・学部によって大きく異なることがあります。その「人物像」を表現した文書が「アドミッション・ポリシー（APとも略します）」です。そもそも、自分がこれに適合すると感じる大学との相性は良好であると予想されますし、合わないことが多ければ考え直すべきかもしれません。

当然、「志望理由」の中心的な部分は「私はかくかくしかじかの理由で、この大学の求める人物像にぴったりなのです。私に学ぶ場を提供してください」という主旨になります。「アドミッション・ポリシー」は進路選択の原点である、といっても過言ではありません。



募集要項

何を提出し、どのような審査が行われるのか？▶具体的方法

志願するにあたって、実際に何をどこにいつまでに用意して、どのような方法で選抜が行われるのか……このことを具体的にまとめたのが「募集要項」です。この内容のチェックを怠ると、必要なものを用意し忘れたり、不要なものに時間をさいてしまったりといった無駄が生じます。最初に細かい点まできちんと確認しておくべき重要資料です。目を通したら「何を」「いつまでに」「どこに」提出するのかのチェックリストを作成することを勧めます。

アドミッション・ポリシーは「選抜の考え方と基準」を示し、募集要項は「選抜の具体的方法」を示します。前者は内容的な面での、後者は形式的な面での最も基本的な情報源です。

▶大学入試の動向について

2021年に「大学入学共通テスト」がスタート、24年からは新教科書による新「共通テスト」になります。動向を整理します。まず「読解力・情報処理力重視」です。おぼえたことをただ答えるのではなく、その場で読んで考えることが増えます。「総合型」などで求められる「問題解決」を目標にした学力を重視する傾向が進みます。同時に「総合型」では「学力も重視」となり、両者が接近するともいえます。



志望理由は具体的に、もっと具体的に

自分の言葉で・具体的にできるかどうか勝負ポイント

目標は「自分にしか書けない具体的なこと」

誰でも同じように書ける「志望理由」では、読んでもらう価値はない

選抜は、あなたと大学との「お見合い」かもしれません

大学は「AP」に適合した意欲あふれる学生を強く求めています。少しでも学校にマッチした学生がほしいのです。大学も企業の一種なのですから、優秀な卒業生を送り出し社会に貢献することは、その存続に関わる重大な関心事なのです。

みなさんと大学の出会いから入学までの過程を、恋愛や結婚にたとえてもよいでしょう。総合型や推薦は、偶然出会って「一目惚れした」ケースとは異なりますので、双方が会う場所をセッティングした「お見合い」といえます。お互いに写真、履歴書や自己紹介を交換します。大学は「AP」を、みなさんは「志望理由書」を提示します。一見、大学が一方的にみなさんを選ぶように見えるかもしれませんが、実際にはみなさんが大学について深く知り、その結果「このことは合わない」「期待していた環境ではない」と考えて志望を取り下げてもよいのです。

仮に、相手のことを気に入ったとして、自分をどのようにアピールしますか。

「前向きな人間です」「人への優しさを大切にします」などといった具体性に欠ける表現に、あなたは魅力を感じますか。また、相手のどこに魅力を感じたかを説明しようとして「性格がいい」「しっかりしている」だけではあなたの想いのほどが相手に刺さるでしょうか。

大切なのは、あなたにしかいえない具体的なことを伝えることです。志望理由書は「あなたのこの点に魅力を感じた。自分とここがぴったりだ。一緒にやっていくとこんないいことがある」という内容を表現して伝えるためのものであると理解してください。その意味で大学への「恋愛感情の告白」のようなものかもしれません。

⇒くわしくは《調査編（11ページから）》で



最優先は「具体性」です

志望理由書に戻ります。ここには自己PRも含まれます。次のAとBをそれぞれ比べてください。

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| ① A：緑豊かな環境で学びたい。 | B：◇学部の○○教授のもとで発達心理学を学びたい。 |
| ② A：自分は前向きで粘り強い。 | B：高校時代に△検□級の試験に10回挑戦してとうとう合格した。 |

わかりますね。Aは他の誰かが書いても区別できません。あなたである必然性がないのです。Bは、他人と替えることはできません。その人だけの意見であり、経験です。もちろん、実際にはもっと細かく具体化する必要がありますが、ポイントは理解できたと思います。

では、どうしたらもっともっと具体的に書けるのでしょうか。



対策の中心は「調査」です

どの学部（学科）のどの先生のもとで何を学ぶことが、あなたにとっての目標といえるのでしょうか。また、大学で学ぶことを通じてあなたはこの社会に何をもたらしことができるのでしょうか。ほんやりしたことはいえても、具体的なことはよく調べないとわからないことでしょう。

そう「調べること＝調査」が最重要課題なのです。

大学で学ぶことも同じです。「問題を発見し、その解決のための課題を設定する。そして調査し、考え、仮説を立て、実証し、解答を得る」このような過程が大学で学ぶこと「研究」の本質です。

志望理由書の作成は、そのような「研究」の入門編にあたるといえるのです。

具体性の高い解答をするためには、「将来の夢や目標」「大学・学部の特徴」「そこで学びたいこと」「これまでに取り組んだこと」などを、きちんと調べ、まとめ、細かな部分まで押さえておくことが必要です。

▶次のページから、志望理由書のまとめ方の実例をお見せします。

▶志望理由書の「個性」について

「あなたにしか書けないこと」といわれると「特別な経験はない」「コロナで家にいて何もできなかった」と思うかもしれませんが、誤解しないでください。異常な体験は必要ありません。興味のあることを掘り下げていけば、必ず具体的になり、それが「あなただけの体験」になるのです。また、「コロナ」のおかげでより深く調べるチャンスに恵まれた、ということもありえます。行動することが大切です。



志望理由書の Bad から Good ①

最優先は具体性・次は明確な構造



K 大学 (私立) 法学部 志望理由書は 400 字程度で 1 段落との指定がある



Bad! これでは合格は難しい……

私がこのK大学の法学部を志望した3理由は、1年前に入学案内を読んで、1 緑豊かで静かな環境で落ち着いて4年間法律について考えることができると思ったことがあり、その話を両親にしたら二人とも賛成してくれて、ますます入りたいと強く思ったことが3 きっかけです。法律は、社会の安定や正義になくてはならないものです。私は法律を学ぶことで、今、不安が広がっている日本の社会の進むべき姿を探りたいと思います。高校では1 英語の学習に熱心に取り組んでいます。国際的な視野も必要だと思うからです。今年はスピーチコンテストに出場し、社会と法律についての話をするつもりです。K大学のホームページを見ると、2 法学部では模擬裁判なども行われており、これに参加することも楽しみです。卒業後は法律の知識を活用して社会に貢献できるような職業につきたいと思っています。(359字)

Bad1 具体性があまりに乏しい

Bad2 入学案内とホームページだけでも書ける内容

Bad3 一文が長すぎたり主語と述語のねじれが残ったりするなど推敲不足（最初の文）

Bad4 成り行きまかせで書いただけのような全体の構造

Standard 悪くはないが……改善の余地あり

私が貴学を志望したきっかけになったのは、高校での最初の政治経済の授業で聞かされた先生の一言だった。それは「法律とは、我々の行動を規制し、悪いものをこらしめるためにあると考えている人が多い。これは大きな誤りだ。法律は国家や権力者をしばるためのものだ。国家も権力者もよく暴走し、市民に害を与える。そうさせないために法がある。刑法は罪を犯した人を罰するためにあるのではなく、国家が人を罰しすぎないようにある」という内容だった。驚いた私は、先生にもっと話を聞きたくて質問に行き、いろいろ法について教えてもらった。その先生の母校が貴学であり、恩師がS教授ということだった。法についてしっかりと学び、社会に出てからも法についての正しい知識を活用して、市民の権利を守るような仕事につきたいと思う。ここでその先生に学びたい。それが私の進学希望になった。(369字)

Good1 具体性が高い

Good2 法律についての受験生の考え方が明確に示されている

Bad1 過去の部分が大きすぎ、構造がアンバランス（入学後のことが不足気味）

Bad2 後半の流れがやや不自然（過去▷現在▷未来の順に整理するとよい）



▶ 作文の「要注意」ポイント

第一に、構成を決めてから書くことです。思いつきで書き進めると、まとまりのない文章になりがちです（詳しくは次のページで）。第二に、「文（。で区切られる）」は短くすることです。「Bad!」の最初の文を見てください。長いですね。主語と述語を確認します。「理由は（主）～きっかけです（述）」と、かみあっていません。文が長いと途中で主語を忘れてしまい、こうなりがちなのです。

志望理由書の Bad から Good ②

最優先は具体性・次は明確な構造



K 大学 (私立) 法学部 志望理由書は 400 字程度で 1 段落との指定がある

Good! なかなかのレベルです！

私は貴学法学部を志望する。なぜなら、F 教授のもとで刑事訴訟法について学びたいからである。高校 1 年の夏に「えん罪」をテーマにした映画を観た。信じられない不正義がたくさん積み重なってえん罪が生まれたことがわかった。政治経済の先生に質問すると、日本の刑事訴訟の問題点を説明してくれた上で、F 教授の公開セミナーを紹介してくれた。ここで「推定無罪」の考え方が刑事訴訟法にあるのに、その運用上守られていないことを知り、衝撃を受けた。目標が定まった。セミナー後、F 教授と話す機会があり、そこで希望を伝えたら「歓迎する」と言ってくれた。貴学の公開模擬裁判の傍聴もできた。進学後は検察官・弁護士・裁判官の各役で参加したい。また、法律事務所でのインターンシップなども経験したい。目標は司法試験合格。その後、どの職種を選ぶかは、大学での研究過程を通じてよく考えたい。日本の刑事司法の適正化に少しでも役立ちたい。(397 字)

Good1 具体性が高い

Good2 法律についての受験生の考え方が明確に示されている

Good3 最初に結論があり、過去▷現在▷未来、となるよう明快に構成されている

Good4 大学での活動がしっかり書き込まれている



構成の基本パターンをつかむ

論理的な文章をきちんと書けることは、大学で学び、卒業するために必須の技能です。多くの学部で「卒業論文」が課されています。論文とは、自分の考えを一定のルールに沿ってまとめた文章です。大学進学時に求められることのある「小論文」はこの小規模なものです。

ここでの「一定のルール」とはどのようなものでしょうか。

それは「結論（主観的意見）を納得してもらうために、根拠（客観的事実）を並べる」ということです。

妙な例ですが、仮に『世界最高の書物は「坊っちゃん」である』ということを論じてみます。ごく手短かに結論と根拠を並べます……なお、用いる事実はすべて虚構（ウソ）です。

- ▶ 世界最高の書物は「坊っちゃん」である。(結論)
- ▶ 全世界で約 1000 億冊が売れた、史上最大のベストセラーである。(根拠 1)
- ▶ そして、私の調査では読んだ 1000 人中 999 人が「最高の書物だ」と答えた。(根拠 2)
- ▶ さらに、この本を読んで笑い、笑って病気が治った人が東京に 1000 人いることがわかった。(根拠 3)

最初に結論、その後に説明（根拠）という構成は、上記のような簡単なものから本格的な論文まで常に用いられます。では、同じ方法で超小型の志望理由書を構成してみましょう。

- ▶ 私が志望するのは、F 教授のもとで刑事訴訟法を学びたいからである。(結論)
- ▶ えん罪の映画がきっかけで、F 教授のセミナーを聴き衝撃を受けた。(根拠 1：過去)
- ▶ そして、F 教授は私に「歓迎する」と言ってくれた。模擬裁判も傍聴した。(根拠 2：現在)
- ▶ 入学後は模擬裁判の各役を務めたい。インターンシップも経験したい。(根拠 3：大学での未来)
- ▶ 目標は司法試験合格。日本の刑事司法の適正化に役立ちたい。(根拠 4：社会に出てからの未来)

このような構成イメージをしっかりもっておくと、書くときに迷ったり滞ったりすることがなくなります。このとおりでなくても構いませんが、**結論▷過去▷現在▷未来** の流れはたいへん有効です。

▶ 構成・段落・文体について

上のような構成は基本中の基本ですが、大学から具体的な構成が示されている場合は別です。それに従ってください。段落数については、400 字くらいまでなら 1 段落でかまいません。長い場合は上の結論・過去・現在・未来をそれぞれ 1 段落とするのが確実です。最後に文体ですが、原則「言い切り」で書くことを勧めます。「です・ます」調は、文が長くなりがちで、しばしばゆるんだ印象を与えます（もちろん、指定があれば従ってください）。



最初に自分を知る・次に相手を知る

私ってどんな人？ その学校ってどんなところ？

「お見合い」のためには自分と相手の知識が必要

6ページで「お見合い」にたとえました。会ったら、お互いの自己紹介からはじまります。あなたは自分をどう説明しますか。大学へのアプローチの場合、合格したいのですから「私にはこのような長所があります」とアピールすべきです。しかし、日本人の多くは「自己PR」が苦手です。

そこで最初に、「自分自身を知る」試みです。



長所を「特性」と言いかえてみる ― 長所は短所の裏返し

「長所」に特別な決まりはありません。「私に長所があるのかといわれても……」という人こそ、続きをよく読んでください。長所のかわりに「特性」といってみます。いい悪いではなく、はっきりとした性格のことですね。

たとえば、小学校から死ぬまでずっとトランペット一筋で、他のことには目もくれないという人がいたとします。「ぶれることなくうちこんだ」といえば長所にきこえますし、「頑固で、視野が狭い」といえば短所になってしまいます。同じように「落ち着きがない」と「いろいろなことに関心があり、興味の幅が広い」も、ある特性の評価をひっくり返しただけの関係なのです。

短所は見方を逆転させれば長所になる。このことをおぼえておいてください。

まず、あなた自身の「特性」を書きましょう。長所も短所もあわせて、感じるままに書いてください。そして、短所は、今やったようにひっくり返して長所にしてしまいましょう。

書けたら、次に具体例です。「辛抱強い」という長所なら、それを裏づける具体的な事実を書いてください。これで、説明できる状態になります（志望理由書にここまででは使いませんが、面接や自己PRなど、活用できるチャンスは数多くあります）。

多角的な見方を想定してみる ― 見る人によって長所・短所も変わる

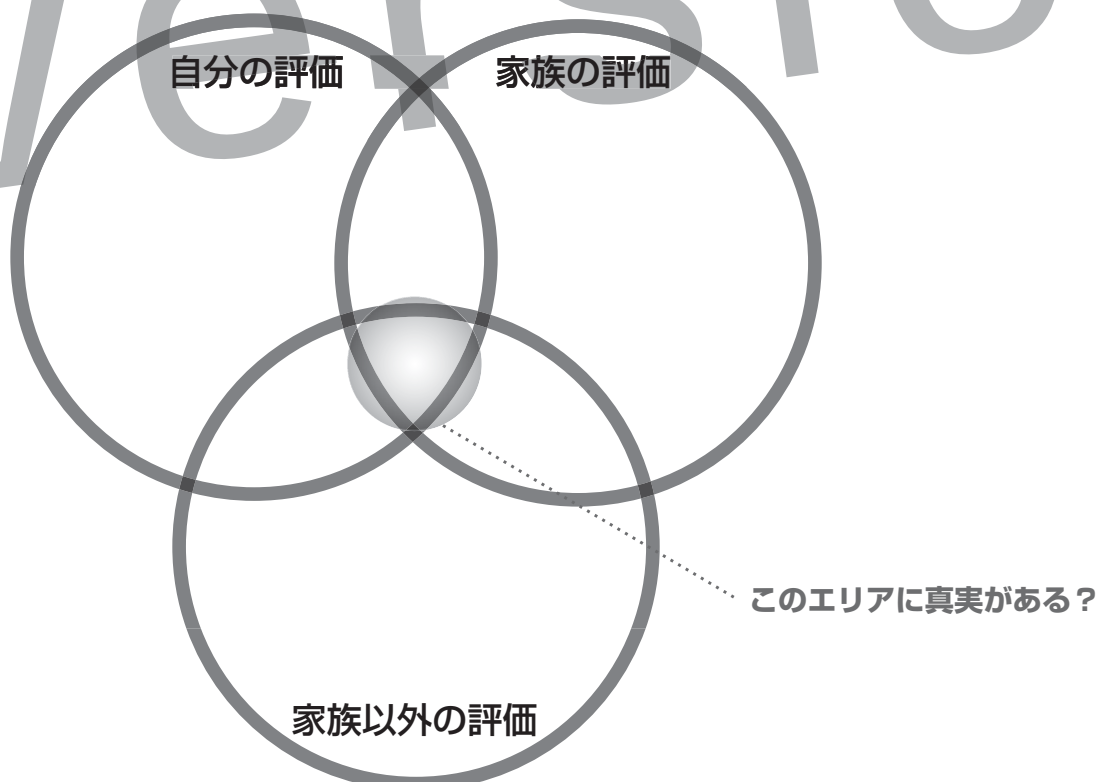
自分の見ている自分の特性と、外から見る特性が異なることはよく起こります。比較することで、より掘り下げた自分の姿をつかむことができるかもしれません。

調査はかんたんです。2つのグループの誰かに、あなたの長所（または特性）が何だと思うのか質問するのです。

なお「2つのグループ」とは次のとおり。

- ①**家族** あなたのプライベートを知っている ②**家族以外** あなたのプライベートを知らない

時間が許すなら、下の図を使って、自分・家族・家族以外のそれぞれによる「あなたの特性」を整理してみてください（時間がなければ次のページに進んでもかまいません）。意外な、もしかしたらより興味深いあなたの特性が明らかになるかもしれません。



自分自身の「特性 ▶ 長所」を確認

長所を整理し、説明できるようにしてみよう



特性を書き出して長所にする

具体的な事例も加えて、説明できるようにまとめよう。

私の特性① 長所・短所どちらでも書く	特性①の具体的事実 記憶しているできごとを書く
特性： 第一印象では [長所 ・ 短所] 短所の場合：長所に変えると次のようになる	いつ： どんなことが：
私の特性② 長所・短所どちらでも書く	特性②の具体的事実 記憶しているできごとを書く
特性： 第一印象では [長所 ・ 短所] 短所の場合：長所に変えると次のようになる	いつ： どんなことが：
私の特性③ 長所・短所どちらでも書く	特性③の具体的事実 記憶しているできごとを書く
特性： 第一印象では [長所 ・ 短所] 短所の場合：長所に変えると次のようになる	いつ： どんなことが：



私の特性① 長所・短所どちらでも書く	特性①の具体的事実 記憶しているできごとを書く	
特性：ゆっくり構えずで行動が遅い 第一印象では [長所 ・ <u>短所</u>] 短所の場合：長所に変えると次のようになる おだやかで他人を安心させる	いつ：台風の被害のとき どんなことが：停電の中、家でローソクの火でのんびり本を読んだ。楽しそうにしていたら「あんたを見てると気が抜けて落ちつくね」と祖母にいわれた。	短所⇒長所へのひっくり返し方がわからなかったら、担当の先生に質問しよう。 可能な限り具体的なエピソードを書く。「よく〇〇といわれる」だけでは何も説明していないに等しい。



志望大学・学部も想定して「長所 / 短所」を整理してみる

上の項目をもとに、長所を二つ、短所を一つ書き出してみます。

長所 1

長所 2

短所

▶ 次のページから、「相手（大学）を知る」行動に移ります。

照れますね
やっぱり……



アドミッション・ポリシーを読む

すべてはここから始まり、ここに行き着く



大学と学生の「相性」の大切さ

「大学をどう選ぶか」というテーマについて、最も一般的な指標となってしまうのが偏差値です。「なっている」と書いたのには理由があります。偏差値とは「平均点を基準にした場合、そこからどれくらいずれる（偏差）ているか」を数値化したものです。偏差値自体は学力テストの結果だけでなく、身長や体重、握力などにも用いることができるものです。この数値は一定以上の規模の集団の場合、似たような別の集団との比較がしやすいので、現在の生徒と過去の生徒の可否状況を比較して結果を予測するのに用いられます。

しかし、この数値では単に「集団の中でどれくらいの位置にいるか」を知ることしかできません。たとえば医学部が「医師に向いた人材」を求めようとしても、高得点の生徒を選ぶ役にしか立ちません。

総合型選抜は、大学側が積極的に志願者の適性を判断しようとする方法です。学校推薦型は、高校にその選考の一部を委ねる方法です。ここで重要なのは「成績の上下以上に、その大学・学部・学科との相性がよいのかどうか」を重視することです。

「相性」などとあいまいな表現をしましたが、とても大切なことです。大学はそもそもある分野の研究者を集めた「学部」が基本的な単位です。もっといえば、学部は専門家である「教授」などの教員（研究者）を単位とした集団です。教員にはそれぞれの専門分野と個性があり、当然、学生との相性も重要な意味があるのです。学問の各分野には多様な学説があります。中には真っ向から対立する学説もあります。たとえば、「言語」の研究者には「人間の言語のしくみは、ある程度遺伝子に組み込まれていて、人間は生まれながらに文法を理解できるようになっている」という説と、「人間は真っ白な状態から生まれ育った環境で用いられる言語を習得していく」という説があり、対立しています。ある大学の教員がどちらの考え方を支持しているかによって、学生は大学を選ぶのが適切ではないでしょうか。共感できない学説の教員の指導を受けることは、ミスマッチによる不幸の原因になりかねません（もちろん、相性の悪さが刺激になって学問をより活性化させることもありえるのですが……）。

だからこそ、大学側はある程度具体的な「求める学生像」を提示し、学生側もそれを理解して検討するというのがあるべき姿かもしれません。

その意味では、総合型・学校推薦型は大学の入学者選抜の正しい姿の一端を表しているのです。



大学で「学ぶ」とはそもそもどのようなことか

高校までと大学では「学ぶ」ことの意味が大きく異なる、ということを見聞きしたことがありますか。両者の間には「根本的に異なる」といってもいいくらいの差異があります。

小中学校と高校を比べると、それほど大きな違いはありません。かんたんにいってしまえば、内容がより詳しくなる、という違いです。高校までは学習のほとんどは「教科書が存在し、そこに書かれたことを理解しておぼえる」ことに終始します。「調べ学習」や「自由研究」もありますが、実際には解答がすでに得られているものをなぞるのが主流です。

大学で行われるのは「研究」と呼ばれます。高校までの教員は「教える」職業ですが、大学の教員は「研究者」でもあります。

「研究」とは何でしょうか。それは、世界中の誰もわかっていないことをわかるようにするための活動です。高校までは「既にわかっていることを知る」のがテーマですが、大学からは「わかっていないことを解決する」のです。そうすると「何をわかるようにするべきか」が出発点になります。すると、「何が問題なのか」という問題の発見が重要になります。

地球温暖化が問題であることは誰でも知っていますが、その原因が何なのかは「わかっている」とはいえません。二酸化炭素の増大は「おそらく重要な原因だろう」といえるくらいなのです。ここに「研究テーマ」が存在します。前の項目に書いた「人間は生まれながらに文法を知っているのか」も、未解決のテーマです。このような大きなものでなくても、「いわゆる新型コロナウイルスのためのワクチンはどのような素材から作られるのが最善か」などの緊急度の高いテーマもあります。研究とは、問題を見つけることから始まるものなのです。

だから、その大学の学部・学科にどのような教員がいて、どのような専門分野での研究をしているのか、その研究とみなさんそれぞれの関心や目標がどう結びつくのかをできる限り知るべきなのです。また、大学側は、それを知ろうとする行動があったかどうかで、みなさんの「学ぶ意欲」が本物かどうかを見極めようとしています。

上記のような教員や専門分野・学説などについて強い関心があり、実際によく調べて知った上で志望しているというのなら、その志願者は注目すべき存在になります。

▶大学で学ぶ～「科学」について①

大学の学部（学問分野）は、主に次の三つに分けられます。人文科学・社会科学・自然科学です。人文科学は「国文学」「英語学」など……「科学ですか？」と思うかもしれませんが、近代における「科学的」とは、研究した結果を「誰でも再確認できる形で」発表することを意味します。「再現可能性」ともいいます。「誰でも実験や調査で確認できる」ことが科学の条件なのです。



アドミッション・ポリシーの実例①

どう書かれているか・どう整理するか



重要

読んだら、重要な内容を箇条書きにして整理する

アドミッション・ポリシー（AP）は、多くの場合、一定以上の分量の文章として書かれます。抽象的な表現や硬い言い回しが多用されることも少なくありません。要約・整理が必要です。

以下に、複数の実例を記します。そして、要約の実例もあわせて掲載します。皆さんそれぞれの志望大学について、おなじように要約・整理してください。

▶例1 K 外国語大学（私立）外国語学部 英米語学科

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

求める人材像について

高等学校での履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で

- (1) 高等学校での学習・活動を通じての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人
- (2) 実践的な英語力を向上させるとともに、深い専門性を英語で探求することにより、国際社会で活躍できるキャリア形成を目指す強い意志を持つ人

要約・整理・課題発見のポイント

大学が求める人物と能力・資質について、重要箇所に着目します。上の文章の____下線部がそれです。まずは下線などの目印をつけて、あとのページのスペースに書きましょう。その場合、わかりやすくて確実なのは箇条書きです。APがそもそも箇条書きになっていることもあります。それでも書き写すことを勧めます。なぜなら、しっかり読みながら書くことは、印象を強め、しっかり記憶するための有効な手段なのです。

次に注意点を二つ。

注意点1：自分の過去・現在・未来と関連させながら読み、書く

注意点2：わからないことは「？」マークなどを用いて明らかにしておく

以上を踏まえた要約・整理の実例を記します。番号のついた太字項目がAPそのものの箇条書きです。次の行は、その項目に関連する「自分自身の状況」についてのメモです。参考にしてください。

要約・整理・課題発見の実例

- 1 論理的に自分の意見を発信
論理的な文章が書ける・話せる
- 2 「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた
TOEIC、英検の検定取得（4技能）・ネイティブの先生との会話（聞く・話す）英語で書く毎日の日記（書く）
- 3 基礎的な知識・技能
TOEIC、英検の取得
- 4 目的意識・意欲がある
世界の成り立ちや関係、つながりなどの知り得なかったことを学びたい・【？ どのように学びたいか】
- 5 実践的な英語力を向上させる
【？ 学部での履修科目などを調べる必要がある】
- 6 深い専門性を英語で探求する
【？ 学部での履修科目などを調べる必要がある】
- 7 国際社会で活躍できるキャリア形成を目指す強い意志を持つ
国際社会に貢献できる社会人になりたい・【？ 卒業後の就職先を調べる必要がある】

▶大学で学ぶ～「科学」について②

「再現可能性」をどう確保するのか。自然科学、物理や化学ならば、研究に際して、実験の方法や手続、結果などを正確に記録することです。別の場所で別の人が同じこと（追試）をして、同じ結果が得られれば、その研究が認められます。「文学作品の研究」ではどうしても曖昧さが残りますが、それでも根拠になった資料や考えの流れなどを詳細に記して、「追試」しやすくします。



アドミッション・ポリシーの実例②

どう書かれているか・どう整理するか

▶例2 T薬科大学（私立）薬学部

薬学部では、人類と生命を慈しむ心と医療を担う薬学人にふさわしい十分な知識と態度を持ち人類の福祉と健康に貢献できる豊かな人間性と広い視野を持つ人材を育成するために以下の能力を持つ学生を求めます。

求める学生像

- ① 入学後の修学に必要な基礎学力を持っている
- ② 相互理解のための基本的表現力を有している
- ③ 自分の考え、意見や行動に責任を持っている
- ④ 医療を扱う薬学人として、人類の福祉と健康に貢献したいという強い意志がある
- ⑤ 健康で豊かな人間性と倫理観を養うために自己啓発、自己学修、自己の健康増進に積極的かつ継続的に取り組む意欲を持っている
- ⑥ 社会、芸術、スポーツ活動に積極的に参加する意欲を持っている

要約・整理・課題発見のポイント

この例では、求める学生像がそもそも箇条書きになっています。それでも一度は書き写すことを勧めます。なぜなら、しっかり読みながら書くことは、印象を強め、しっかり記憶するための有効な手段なのです。

次に注意点。もう一度確認のために記します。

注意点1：自分の過去・現在・未来と関連させながら読み、書く

注意点2：わからないことは「？」マークなどを用いて明らかにしておく

以上を踏まえた整理の実例を記します。番号のついた太字項目がAPそのものの箇条書きです。次の行は、その項目に関連する「自分自身の状況」についてのメモです。参考にしてください。

要約・整理・課題発見の実例

- ① 入学後の修学に必要な基礎学力を持っている
持っている・高校の成績は10段階評定で平均8【？ これでじゅうぶんなのか・先生に確認してもらう】
- ② 相互理解のための基本的表現力を有している
ディベートの技術を磨いた・学校内の「ディベート選手権」で優勝した
【？ これは誤りではないか・先生に確認してもらう】
- ③ 自分の考え、意見や行動に責任を持っている
体重を減らす必要があるため本で糖質制限について学ぶ・糖質制限をしながら健康に痩せるため毎朝自分の弁当は自分で作ることを母親に伝え、今まで休まずに作っている・高校3年生になるまでに健康的に10キロの減量に成功
- ④ 医療を扱う薬学人として、人類の福祉と健康に貢献したいという強い意志がある
医食同源という言葉を実感。自分の体験から健康のありがたみを知る。他の人にも広げたいと思う
【？ もっと具体的にすべき・特に、広げる方法について】
- ⑤ 健康で豊かな人間性と倫理観を養うために自己啓発、自己学修、自己の健康増進に積極的かつ継続的に取り組む意欲を持っている
健康的にダイエットに成功した経験・【？ 他に適切な具体例はないか】
- ⑥ 社会、芸術、スポーツ活動に積極的に参加する意欲を持っている
地域の文化祭に準備から参加（茶道）・地域のボランティア活動に参加（独居老人宅の訪問）

▶次のページで、APのまとめを実際に行います。

▶大学で学ぶ「科学」について③

大学の学部では、これまでに説明した「研究」の考え方や方法を学ぶことになります。しかし、誰でも卒業までに「新発見」ができるわけではありません。しかし、「科学の基本的な姿勢」や、論文作成を通じて得る「論理で他者を説得する方法」は一生有効です。なお、さらに研究を進めたい人は、卒業後に大学院に進学します。「修士」「博士」の二段階の過程で、専門家になるための訓練を重ねます。





アドミッション・ポリシーの要約と整理

情報を整理・要約し、さらに、不足している部分「課題」を発見しよう

志望大学・学部・学科など

※複数の候補があったり迷っていたりする場合は、そのことも書こう。

アドミッション・ポリシーの要約・整理・課題

要約・整理すると同時に、もっと具体化しなければならない課題もメモしておこう。

※困ったら P.12, P.13 を参照しよう。

SAMPLE
version

募集要項を読む

何を準備するか・いつまでに必要か……作成の枠組みを確認

重要な内容を箇条書きにして整理する

ここでも自分で整理するのは重要です。書くことでおぼえる、ということはもちろん、自分でまとめることで、自分自身が理解しやすい形になる意味もあります。

▶例1 K大学(国立) 法学部 総合型選抜Ⅱ

第1次選抜

提出された調査書又は調査書に代わる書類、志望理由書及び、英語能力試験の成績の総合評価による

【英語能力試験】について TOEFLiBT (61) GTEC (3技能) (680) GTEC (4技能) (1110)

……上の()内の数値は目安……上記以外に、TOEIC、英検、IELTSの結果も使用可能

第2次選抜

第1次選抜の合格者に対し、英語試験、個人面接及び△年大学入学共通テストの成績の総合評価により選抜

出願期間

△年9月15日(火)～9月18日(土)

選抜期日

第1次選抜 △年10月上旬～中旬

第2次選抜 △年10月31日(土)・11月1日(日)

志望理由書記述要項

- 1 GVプログラム*を志望する理由
- 2 将来の夢、希望する進路
- 3 自己紹介(長所、短所、特技、関心を持っていること、社会活動など)

*「GV (Global Vantage = 国際的法律家)」を、法学部+修士課程の実質5年間で育成します。ここでいうグローバル・ローヤーとは、「各国の法律家に互して、英語で交渉し、契約書を起草し、各国での法適合性を調査し、国際ルールの策定に参加するなど、国際ビジネスの最先端で活躍する人材」です。

▶例2 R大学(私立) 理工学部 [理工セミナー方式] 総合型選抜

出願期間

△年10月21日～10月27日

試験期日

△年11月21日

出願時に必要な書類

- ① 入学志願書
- ② 志望理由書(800字程度)
- ③ 調査書類
- ④ 該当者のみ数学オリンピックなどの結果を証明する書類のコピー

選抜方法

「数学」および「物理」に関するセミナーを行い、その理解度を問う筆記試験と出願書類(志望理由書)による書類選考、および面接を総合的に評価し、合否を決定します。

▶次のページで、募集要項のまとめを実際に行います。





募集要項のまとめと注意点

忘れたり、取り残したりすることがないように確認しよう

募集要項のまとめと注意点

何を・どのような形で・いつまでに……を整理して、準備もれないようにしよう。

SAMPLE
version

過去・現在・未来の調査

志望理由書作成のための情報収集

調
査
編

調査編のまとめ すべて「具体的」にすること

大学はあなたのことを知りたがっています。あなたの何を知りたいのでしょうか？「あなたはこの大学で何を学び、どのような形で社会に役立てようという意志・計画をもっているのか」です。

大学の質問は【あなたはここで何がしたい・何ができる】これだけです。

「志望理由」や「自分の長所」「高校での経験」「将来の展望」などのテーマがありますが、まとめてしまえば上の1行です。この質問への解答が準備されていれば、ほとんどの質問に確実に解答できます。

では、志望理由書の準備がどのような性質のものなのか、1行でまとめましょう。

志望理由書とは【私は何を学び、役立てたい】について説明するものです。

ある学校に進学したい。しかし、本来、進学そのものが目標ではありません。次の例を読んでください。

たとえば「医師になりたい」とします。▶だから「医学部に進学したい」となります。これが志望理由です。▶そして、「なぜ医者になろうと思ったのか」と自分に質問すると、「医者に難病の弟の命を助けられて、感謝と憧れを感じた」という動機が見つかる場合があります。▶以上の経験から、「ある種の難病の研究をしながら治療法開発に努める医師」という将来のイメージが生まれます。▶そのために高校の学習に加え、医療や生命倫理などについて学ぶという行動が導かれます▶このようにして、「生命を大切にしたいと考え、努力する」人物像ができあがるかもしれません。

このような小さなストーリー（物語）が誰の人生にもあります。志望理由書の作成とは、「目標～その実現のための方法～動機」といったものを見直し、まとめ、発表できる状態にすることなのです。

たった今、「ストーリー」と書きました。整理してわかりやすくまとめるためには、時間軸に沿って整理するのが効です。そこで、志望理由書の核になる部分を「過去▶現在▶未来」の流れに沿ってまとめることにします。



過去・現在・未来をまとめる

研究とは「課題設定・調査・まとめ」

これまでに説明した流れを整理すると、次のようになります。

過去 志望理由（将来の希望）のきっかけ

現在 希望実現のために努力していること

未来① 大学で学ぶこと

未来② 社会での活動や貢献できること（職業）

以上のことを具体的に「あなたにしか書けない内容」をふまえて書くことができれば、志望理由書はできたも同然です。そのような志望理由書なら、大学も確実に注目します。

しかし、「今すぐにでも説明できる」という人は少ないでしょう。だから本書では、上記のようなテーマに沿って「調査」を行います。ここからのページでは、《ワークシート》を活用して、調査に必要なテーマを設定し、内容と調査方法を定め、実際に調べた結果を記入することでまとめます。

このような「課題設定・調査・まとめ」の過程を通じて志望理由書の中身が次第に組み立てられていきます。また、面接や自己PRに使用する素材も同時に揃えられます。

このように、自分自身・大学・社会について調査を行います。以前にも書いたように、大学での研究も「課題設定・調査・まとめ」の流れで進められるものです。

▶次のページから、志望理由書のスケッチを行います。

▶項目の順序について

上の4項目（過去・現在・未来①・未来②）を実際にどう配置するか。もっとも確実なのは「時間の順そのまま」です。すると、志望理由書は次のような構造になります。 結論（理由）▶過去▶現在▶未来①▶未来② 最初に結論があることが大切です。要約すると次のようなものです。……私は〇〇のために貴学を志望する。そのきっかけは〇〇だった。現在、〇〇に取り組んでいる。大学では〇〇したい。社会に対しては〇〇したい。





ワークシート^{ゼロ}0

志望理由のスケッチ

出発点の確認のために書いてみよう・できるだけシンプルに・正直に

志望大学・学部・学科など できる範囲でなるべく正確に具体的に書いてください。

アドミッション・ポリシー 求める人物・人材のまとめ

P.14 に書いた内容をもとにして、もう一度整理しよう。

SAMPLE

結論 なぜ、そこに行きたいか？

最も大切なポイントです。結論をシンプルに書きましょう。

version

過去 志望するに至ったきっかけ

「きっかけ」といえるものを書いてください。わからない場合は「不明」と正直に書いてください。



現在 志望大学・学部に関わって活動

今やっていることを書いてください。思いつかない場合は「不明」と正直に書いてください。

未来① その大学でどのようなことを学ぶのか

今考えられることを書いてください。思いつかない場合は「不明」と正直に書いてください。

未来② 社会にどのような貢献ができるか（職業）

今考えられることを書いてください。職業は「現時点でのイメージ」でかまいません。思いつかない場合は「不明」と正直に書いてください。

課題 以上から「何が足りない」といえるか

自由に書いてください。

ワークシート0 志望理由のスケッチ

出発点の確認のために書いてみよう・できるだけシンプルに・正直に

志望大学・学部・学科など 今の時点でできる範囲でなるべく正確に具体的に書いてください。

K 外国語大学・外国語学部・英米語学科

アドミッション・ポリシー 求める人物・人材のまとめ

P.14 に書いた内容をもとにして、もう一度整理しよう。

- 1 論理的に自分の意見を発信
- 2 英語の「聞く・話す・読む・書く」4技能の基本が身についている
- 3 基礎的な知識・技能
- 4 目的意識・意欲がある
- 5 実践的な英語力を向上させる
- 6 深い専門性を英語で探求する
- 7 国際社会で活躍できるキャリア形成を目指す強い意志を持つ

結論 なぜ、そこに行きたいか？

最も大切なポイントです。結論をシンプルに書きましょう。

- ・スーパー IES プログラムに参加したい
- ・スーパー IES プログラムを終了し、語学&インターンシップ留学に行きたい
- ・観光学・エアラインを学びたい
- ・将来は空港・観光の仕事がしたい

過去 志望するに至ったきっかけ

「きっかけ」といえるものを書いてください。わからない場合は「不明」と正直に書いてください。

- ・4回の留学
- ・英語が好き
- ・もっとあるような気がするが不明



現在 志望大学・学部に関係する活動

今やっていることを書いてください。思いつかない場合は「不明」と正直に書いてください。

- ・ピアアシスタントの資格取得
- ・単語を毎日覚える
- ・英語の検定試験への挑戦（英検・TOEIC）
- ・毎日の英語日記

未来① その大学でどのようなことを学ぶのか

今考えられることを書いてください。思いつかない場合は「不明」と正直に書いてください。

- ・スーパー IES プログラムに参加したい
- ・リベラルアーツ留学をしたい
- ・語学&インターンシップ留学
- ・「グローバル・コモンズ結（寮）」に入居し、多くの国の学生たちと交流し多文化・多言語に触れ友だちを増やしたい

未来② 社会にどのような貢献ができるか（職業）

今考えられることを書いてください。職業は「現時点でのイメージ」でかまいません。思いつかない場合は「不明」と正直に書いてください。

- ・航空業界に就職したい
- ・おもてなしの心で外国の方と接したい
- ・海外と日本の架け橋になりたい
- ・日本の良さを発信したい

課題 以上から「何が足りない」といえるか

自由に書いてください。

- ・過去の自分（英語が好きになったきっかけや留学での具体的エピソード）
- ・未来②の具体的方法
- ・スーパー IES プログラムについてよく理解し語れるようにする
- ・ピアアシスタントについて語れるようにする

何を、どうやって調査するか

課題に沿って……文書や公式 HP ⇒ HP の深い部分や関連記事⇒直接取材

入学案内や公式ホームページを「読む」

まず「表向き」の内容を確認

入学案内やホームページの内容は、真っ先にチェックすべきです。ただし、しばしば「表面的」「抽象的」なあたりさわりのないことが並んでいるのも事実。また、誰もが目を通すものですから、ここに書かれた内容をそのまま活用するようなことでは、「誰もが同じ」ような志望理由書になってしまいます。あくまでも「基本情報」です。そして、そこから「疑問点」や「ツッコミどころ」を拾い、入学後の設計をより具体化し深めるための入り口と考えます。



入学案内や公式ホームページを「深読み」

その場にいるつもりで疑問点をチェック

いうまでもなく公式な記述には「いいこと」しか書かれていません。深読みすべきです。

たとえば、21 ページの作例に「スーパー IES プログラム」「リベラルアーツ留学」などありますが、希望すれば誰でも参加できるのでしょうか。定員枠や成績の条件があるでしょう。負担する費用はどれくらいでしょうか。現実に参加するためには、クリアすべき条件がいくつもあることが想像できます。

このように「実際にその場にいたら何が起ころか」を想定し過程を追ってみる（シミュレーション）ことが必要です。それが調査の課題となります。上の例でいえば、具体的な条件に絞こんで調査することとなります。その結果によっては、現時点や在学中の活動に具体的なテーマが生まれます。

たとえば「成績条件」によっては、その実現のための学習に力を入れることが重要になります。費用の面でいえば、状況によっては「バイト」「奨学金獲得」などの手段が必要になるかもしれません。少なくともそういったことを知っておいて、心の準備くらいはしておくべきです。同様の、より大きな課題が生まれるケースは、「入学者の選抜は学部で行い、入学後何年かして学科（コース・専攻など）に分けられる」というものです。「外国語学部」で募集し、進級時に「英米語」「フランス語」「ロシア語」などに分かれるというものです。ここでも、定員があるでしょうから、希望が必ずとおるといふ保証はありません。基準など調べておくにこしたことはありません。



関連するホームページや文書に「拡大」

興味関心に沿って「シミュレーション」しながら調査対象を広げる

入学案内やHPの基本情報でも上のような疑問が生まれます。この調査にはネット上の情報をより広く、深く探る必要があります。もしかしたら、プログラム参加者の声（学校発表のものだけでなく、より本音を明かしたものまで）が手に入るかもしれません。ここからさらに深められます。

「この先生に学びたい」というのも重要な志望理由です。どこでも手に入るような著書が複数あればよいのですが、専門的な論文などはすぐに手に入るとは限りません。そこで、ネット上の学術論文検索（代表例《CiNii 日本の論文をさがす》《J-STAGE》など）を活用します。そこから、お目当ての先生の論文や関連テーマの論文なども探せます。完全に理解できなくても、少しでも目を通して、その分野における「最前線の研究テーマと成果」に触れておくことはたいへん有意義です。



最も強力な「直接取材」

机から離れ、動いて行動して取材を試みる

ここまでは文書に目をとおす調査、それも自宅の机上でできたことでした。

ここからは「アクション」です。何よりも手っ取り早く、効果的なのは「大学に足を運ぶ」ことです。ただし、無目的に訪問しても時間と費用が失われるだけです。時間が許すなら、上記のような「課題＝調査目標」を用意してから動くのがよいでしょう。「オープンキャンパス」や「WEB 説明会」なども重要な行事です。HP で予定をチェックしましょう。

次に、直接取材の具体的な方法例を箇条書きにします。あくまでも例なので、学校の状況、相手、タイミングなどによっ

▶ ネットでの調査について

インターネットが便利なるものであることは説明不要でしょう。しかし、そこに信頼できない情報が大量に存在することもまた、説明不要でしょう。ネット上の情報には「記した者が名乗り、内容に責任を負うもの」とそうでないものがあります。後者は要注意ですし、前者でも安心とはいえません。書物や論文がある程度信用できるのは、完成させるまでに出版社や複数の専門家が関わって、それなりの「内容保証」をしているからです。



ていろいろ変化します。相手に対し失礼にならないよう注意してください。直接会うということは、極めて有効な調査方法ですが、同時に相手の時間をある程度奪うことでもあります。くれぐれも注意して行動してください(もちろん、その準備などに携わった経験も将来必ず活きるものです)。

一度、先生などの身近な大人に相談してみると確実でしょう。



▶直接取材の具体的方法例

- ・大学に直接質問する(電話・HPの質問フォーム・公開メールアドレスに・訪問など)…主に入試事務局などに
- ・高校生のためのイベントに参加する(オープンキャンパス・説明会など)
- ・外部一般に開かれたイベントに参加する(教員による公開講座・学園祭など)
- ・図書館で目当ての論文などを探し、閲覧する
- ・教員に直接接触する…質問・相談など…メールアドレスを公開しているケースなどに限る

上記の例だけではありません。調べ、考えれば方法はいくらでもあるのです。要は行動すること。

それによって得られる収穫は、疑問への解答だけで終わりません。より深い学問分野への理解、大学での学びの予備知識、場合によっては大学内部の人々との「人脈」にまで発展することもあります。

「志望理由書がより具体的になる」というのは、このような収穫の一部です。

具体性の高い志望理由書にするためには、「将来の夢や目標」「大学・学部の特徴」「そこで学びたいこと」「これまでに取り組んだこと」などをきちんと調べ、まとめ、細かな部分まで明確にしておく必要があります。

▶次のページから、過去▶現在▶未来①(大学)▶未来②(社会・職業)の順で、調査結果のまとめを《ワークシート》を使って行います。



▶項目の重要度について

上の4項目(過去・現在・未来①・未来②)の重要度(ボリュームに反映します)はどうなるでしょうか。もっとも重要なのは「未来①」です。なぜか説明できますか?

当然といえば当然です。「その大学で学びたい」理由を説明するのが志望理由書ですから、そこで何をしようとしているのかについての説明が最も重要なのです。



ワークシート1a 過去の調査・書き出し

きっかけとなった「過去」の体験などを書き出してみる（右ページも）

志望のきっかけになった**体験**など 整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

SAMPLE
version

SAMPLE version

ポイント

はっきりしないことや不明瞭なことがあったら《不明：〇〇について》のようなメモを書き残しましょう。それが調査の対象であることを忘れないようにするためです。



ワークシート 1b 過去の調査・深める

書き出した「過去」の体験から、調査すべきことを設定し、調査結果を記す

不明瞭な点など 【1a】で記憶が曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

SAMPLE
version

注 意 点

ここで書き出すことは、ストレートな考えや調査結果等です。しかし、常に「アドミッション・ポリシー」などに示された、「求められる人物像」との関係を意識してください。

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

SAMPLE
version

ポイント

はっきりしないことや不明瞭なことがあったら《不明：〇〇について》のようなメモを書き残しましょう。それが調査の対象であることを忘れないようにするためです。

ワークシート 1a 過去の調査・書き出し

きっかけとなった「過去」の体験などを書き出してみる（右ページも）

志望のきっかけになった**体験**など 整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

以下の例は、P.12 の **K 外国語大学** の出願を想定したものです

- ・英語が好き
- ・洋楽が好き
- ・両親が洋楽を聞いていたので英語が小さな頃から耳に入っていた
- ・高校で留学制度がある
- ・留学4回経験（オーストラリア・カナダ）
- ・英語でコミュニケーションできた感動
- ・楽しい
- ・もっと英語を使えるようになりたい
- ・もっと英語を使える環境にいたい
- ・もっと外国人とコミュニケーションをとりたい
- ・高校ではピアアシスタントの資格を取得
- ・コミュニケーション力をつける
- ・検定（英検・TOEIC）
- ・留学中に日本の文化について聞かれたがあまり答えられなかった
- ・日本文化を学ぶ
- ・日本文化も外国人に伝えられるようになりたい
- ・いろいろな国の人と友達になりたい

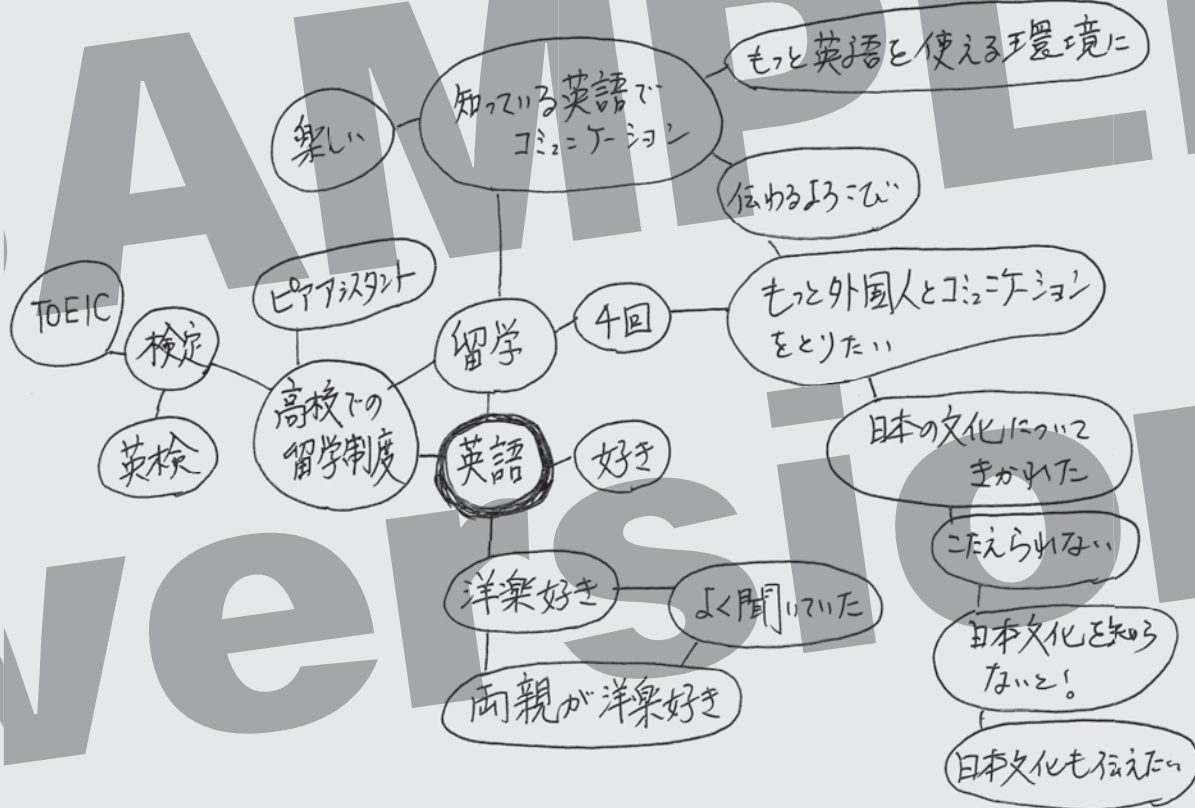


左のページの作例は、ポイントを箇条書きにして整理したものです。可能なら、もう少し項目を分類していくつかのグループに分けると整理・確認が容易になるでしょう。整理段階で大切なのは、項目相互の関係を目で見えてわかるようにすることです。これがうまくできると、スムーズに進むだけでなく、新しいアイデアが生まれることもあります。

一つのヒントとして《メモリーツリー》という手法を紹介します。これは、キーワードを用紙の真ん中に書いて、そこから関連する語句を線で結びつけながら、まるで樹木の枝が伸びていくような図にします。全体をひと目で見ることができ、新発見のきっかけが増えます。

この方法は《メモリー》と名付けられただけあって、記憶を強化する手法でもあります。歴史の学習に特に勧める人もいます。一度試みてはいかがでしょうか。

下の図は、左ページの内容による《メモリーツリー》の作例です。この場合、図に加える情報を「付箋紙」に書いて貼るのも新発見を促す効果的な方法です。



ワークシート 1b 過去の調査・深める

書き出した「過去」の体験から、調査すべきことを設定し、調査結果を記す

不明瞭な点など 【1a】で記憶が曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

- 1 両親がよく聞いていた洋楽の曲名
- 2 おぼえたフレーズの正確な歌詞
- 3 英語の好きなところ
- 4 ピアアシスタントについて説明できるようにまとめる
- 5 留学先の若者が興味を持っている日本の文化についてまとめる

調査結果

調査の結果をメモしておきます。

- 1 ビートルズのレット・イット・ビー
- 2 *When I find myself in times of trouble* ずっと悩んで苦しみ抜いたとき
Mother Mary comes to me 僕のもとに聖母マリアがやってきた
Speaking words of wisdom, Let it be こんな言葉を呟いた「ありのままに」
And in my hour of darkness すべてが暗闇に包まれたとき
She is standing right in front of me 彼女は僕のすぐそばに立っていた
Speaking words of wisdom, Let it be こう呟いたんだ「ありのままに」
と
- 3 「はい」か「いいえ」がはっきりしているところ。曖昧な返事をして相手に
答えを推測させることがない分、自分の意見をはっきり伝えることができ、
ありのままの自分をだせる。世界が広いことを教えてくれた。
- 4 ピアとは「仲間」、アシスタントとは「補佐役、助手、支援者」。仲間として
の立場からの支援者で相談者とは横の関係として相手の悩みを聞き自分たち
で壁を乗り越える経験をする授業。自己理解・他者理解・コミュニケーション
スキルが向上した。
- 5 アニメ（ナルト）・ゲーム（どうぶつの森）・映画（千と千尋の神隠し）・サ
ブカルチャー・茶道についても伝えたい。

以上の例は、P.12 の **K 外国語大学** の出願を想定したものです

ワークシート 1a 過去の調査・書き出し

きっかけとなった「過去」の体験などを書き出してみる

志望のきっかけになった**体験**など 整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

以下の例は、P.13 の **T 薬科大学** の出願を想定したものです

- ・曾祖父がスモン病
- ・薬害病
- ・薬の安全性が確かめられず病気になる
- ・父が糖尿病
- ・血糖値を下げる薬やインシュリン注射による治療
- ・糖質制限により血糖値を下げる
- ・薬の必要性
- ・自分が中学生のときかゆみを伴う全身ひどい肌荒れ
- ・椅子に座っているだけで臀部が痒くなり体液で汚れるほど
- ・漢方薬をためす
- ・劇的な効果
- ・体重増量
- ・減量の必要
- ・食事制限
- ・医食同源
- ・薬を最低限しか出さないかかりつけの医者
- ・薬は毒でもある
- ・趣味の茶道
- ・抹茶は薬
- ・地域のボランティアに参加
- ・独居老人とのふれあい
- ・薬の飲み忘れ
- ・薬の管理



左のページの作例は、ポイントを箇条書きにして整理したものです。可能なら、もう少し項目を分類していくつかのグループに分けると整理・確認が容易になるでしょう。

ここでも《メモリー・ツリー》を参考に掲載します。今回のまとめ方のポイントは、「曾祖父のこと」「私のこと」のように、情報を分野ごとにまとめたことです。これで、見通しがすっきりします。やはり、図に加える情報を「付箋紙」に書いて貼るのも新発見を促す効果的な方法です。



ワークシート 1b 過去の調査・深める

書き出した「過去」の体験から、調査すべきことを設定し、調査結果を記す

不明瞭な点など 【1a】で記憶が曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

- 1 スモン病とは？
- 2 漢方薬とは？
- 3 私が処方された漢方薬は何？
- 4 糖尿病について
- 5 糖尿病の治療について
- 6 糖質制限により血糖値を下げる

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

- 1 整腸剤として使われていたキノホルム服用により発症。キノホルムを製造販売していた製薬会社と使用を認めた国の責任が問われ、訴訟となる。約11,000人がスモンと鑑定され、1979年にスモンの原因究明と患者の恒久対策を条件に和解が成立した。
- 2 漢方薬の原料は生薬。草や木、動物、鉱物など自然にあるもの。たとえば、「ショウガを食べると体が温まる」という、植物などに備わった力を一つひとつ確かめ、組み合わせてできた。漢方の治療原則は、足りないものは補い、多過ぎるものはとり除く。このように体が本来もつバランスを整えていく。
- 3 水が多すぎるのでそれを取り除くための処方が行われた。
- 4 インスリン（膵臓で作られるホルモン）が十分に働かず血液中を流れるブドウ糖（血糖）が増えてしまう。放置すると手足などの切断や失明、心筋梗塞などに至る。
- 5 一般的には飲み薬で血糖値を下げる。効かなくなったら、インスリンを注射して下げるが、下がりすぎて低血糖・意識不明の危険がある。
- 6 関西のE医師の著書に共感した父は薬を使わず、食事と運動で血糖値を正常に保つことを実践。

以上の例は、P. 13 の **T 薬科大学** の出願を想定したものです

志望理由書に使われない!?「調査結果」

取り組みや実績で、何を選び何を選ばないでいいか

カットした内容も無関係・無駄とは限らない

31 ページ【ワークシート 1b】の作例に「Let it be」の歌詞とその訳が書いてあります。しかしこんな細かい内容を書くだけのスペースは志望理由書にはありません。盛りこもうにも、場所が足りないのです。また、歌詞そのものがその他の「学び」と結びつきにくいこともあり、実際の作成時にはカットし、使いません。

しかし、この調査が無駄だったのかということそんなことはありません。その理由を二つ記します。

第一に、**細部におよぶ調査の積み重ねが結果的に文章や発言に厚みと奥行きをもたらします**。「好きな英語の歌があった」としかいえないのと「Let it be が好きで、特に歌詞のここが…」といえるのでは大きな差があります。

第二には、「**学ぶこと・研究すること**」は、一見無関係に見えてもどこかでつながっていることが多いのです。外国語学部に進むきっかけの一つがもし、この歌詞のある箇所の意味と響きの結びつきに魅了された、ということであり、英語の響きの魅力を解明したいということであれば、そこから研究テーマを導くことができるからです。

さらに続けます。皆さんが興味を感じる「あるものごと」は、それこそ無数の学問分野に囲まれているのです。



サッカーに関わる仕事に理学部化学科は関係ない?

学問・研究の分野はあらゆるものごとと結びついている

サッカーが大好きで、選手は無理でも、できればサッカーに関わる仕事につきたい、とします。この人物は何学部の何学科を志願するのがよいでしょうか? 答えは「候補が多すぎて一つには特定できない」です。

プロチームにはサッカーに明るい通訳が必要です(外国語学部)。法律上の実務を担当する「法務担当」(法学部)、利益を上げるための運営方法を計画する係(経営学部)や地域とのコミュニケーションなどを行う係(社会学部)も欠かせません。選手たちの心や身体の管理に携わるスタッフ(心理学部・体育学部・医学部)も存在します。チームだけでなく、スポンサー企業やスタジアムなどにも同じことがいえます。では理工系の出る幕はないのでしょうか。いいえ、大ありです。企業の運営にはIT技術(情報学・統計学)が必須です。シューズやウェアその他の用具類は純然たる工業製品ですから、物理学・化学などを背景にしています。スタジアムなどに広げれば、建築学や機械工学も関わります。このように、大学の学部・学科は世界のほとんどのものごとと何らかの形で関わるものです。

「研究」はこのような具体的なものごとと関係しても不思議ではありません。英語の歌に関心があるのなら、スタジアムで調査実験を行い「日本語と英語のどちらの応援ソングが観客の心理状態を高めるか・英語ならどのような歌がより効果があるのか・その状態はピッチの選手に影響を与えることがあるのか・歌はサッカー選手と野球選手のどちらにより大きく影響するのか」のような研究に結びつけられます。それがすぐ何の役に立つかわいなくても、そのような研究を経験した人物は、「チーム」にとって有益な存在になるとは思いませんか。

あなたが**強く関心を寄せるものごとがあり、それを職業にしたいというのなら、それをめぐる学部・学科・研究テーマについて、ぜひ一度考えてみてください**。そして、そのテーマの研究論文がすでにあるかどうか、P.22の「論文検索サイト」で探してみましょう。もし、あなたの考えたテーマを誰もとりあげていないようなら、次のいずれかです。

◎ 未開の研究分野である(!) △ 論文の検索ワードが不適切(再挑戦) ● 価値の乏しい分野だった(…)

このような視点から調査を行い、経験を踏まえて志望理由書や面接に臨むのはとても価値のあることです。仮に失敗であっても、です。

視点の拡大は、しばしば思いもよらなかった成果を生む

ある分野での「常識」を、他の分野にあてはめてみる

ここまでで「サッカー」だけでも多様なアプローチの仕方があることを説明しました。視点が多様であることは、問題解決の大きな原動力になります。たとえば、バスケット部の選手が、試合に負けた後、「何が原因だったのか」「敵チームに劣っていた点はどこだったのか」「どこを重点的に改善すべきか」などを再検討することでしょう。それを何もせずに「とにかくバスの練習だ!」ではなかなか上達できません。すべてのものごとに「目標」「そのための手段」「できたかどうかの検証」が求められます。スポーツの真剣勝負では当然のことです。

では、みなさんに問います。同じことを学習で行っていますか? 「不成功の原因は?」「できた点とできなかった点は?」「何をどう改善すれば結果がよくなる?」……バスケの常識が学習ではおろそかになっていませんか。学問でも同じことがあります。物理学での常識が歴史学では常識ではなかったり……ということです。視点の拡大によって有効な道筋が見え、解決につながるものがこうして起こるのです。

▶ 野球チームと経済学・統計学

野球(プロスポーツ)に興味がある人におすすめのハリウッド映画があります。「マネー・ボール」(ブラッド・ピット主演)です。資金の足りない貧乏球団の改革ストーリーです(実話)。かんたんにいうと、経済学・統計学の手法を野球にあてはめます。野球界の習慣を無視して、理論上の「最も安上がりで効果的な方法」を駆使して、勝てるチームを作ったのです。



ワークシート2a 現在の調査・書き出し

目標に関連して「現在取り組んでいること」を書き出してみる（右ページも）



進学を意識して、現在（またはこれまでも）取り組んでいること

整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

SAMPLE
version

注 意 点

ここで書き出すことは、ストレートな考えや調査結果等です。しかし、常に「アドミッション・ポリシー」などに示された、「求められる人物像」との関係を意識してください。

SAMPLE version

ポイント

はっきりしないことや不明瞭なことがあったら《不明：〇〇について》のようなメモを書き残しましょう。それが調査の対象であることを忘れないようにするためです。



ワークシート2b 現在の調査・深める

書き出した「現在」の取り組みから調査すべきことを定め、結果を記す

不明瞭な点など 【2a】で曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

SAMPLE
version

注意点

ここで書き出すことは、ストレートな考えや調査結果等です。しかし、常に「アドミッション・ポリシー」などに示された、「求められる人物像」との関係を意識してください。

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

SAMPLE
version

ワークシート 2a 現在の調査・書き出し

目標に関連して「現在取り組んでいること」を書き出してみる

進学を意識して、現在（またはこれまでも）取り組んでいること

整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

英語力アップのため

学習

- ・英検2級、TOEIC500点取得のための学習
- ・単語を毎日覚える～問題集を毎日解く

日常

- ・ネイティブの先生と英語で毎日会話
- ・英語日記を書く

楽しみ

- ・海外アーティストの音楽を聞く
- ・映画を字幕無しで観る

日本文化を学ぶために

学習

- ・Sクラス（進学者用の放課後授業）で、古文と日本の授業を
- ・文学と歴史の両面から過去の日本を知る

日常

- ・料理を手伝い、和食について学ぶ
- ・母に和服の着付けを習う
- ・美術館で日本画の展覧会があり見に行く

調査結果

コミュニケーション力アップのため

- ・ピアアシスタントの学習で培ったスキルを使い、一年生に積極的に話しかけクラスの中に溶け込みやすい雰囲気作りをする
- ・学内外で人の良いところをみつけたら「それかっこいいね!」とか「素敵なおもてなしですね」とか「さすがのおもてなしですね」などと相手に伝えるように努める

おもてなしの心を学ぶ

- ・飲食店やデパートへ出かけて、どのような接客をしてくれるかを観察する
(姿勢・笑顔・指の先まで気を配った立ち姿・丁寧であるが親しみやすい言葉遣い)

以上の例は、P.12 の **K 外国語大学** の出願を想定したものです

ワークシート 2b 現在の調査・深める

書き出した「現在」の取り組みから調査すべきことを定め、結果を記す

不明瞭な点など 【2a】で曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

- 1 勉強の具体的な方法
- 2 日本文化を学ぶ 学習面からの成果
- 3 日本文化を学ぶ 日常面からの成果
- 4 おもてなしの心 接客から学んだ具体的な事柄

SAMPLE
version

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

1 勉強

- ・単語は歯を磨きながら 10 分間必ず覚える
- ・英語日記 ~ 情景描写と自分の気持ちの両方を書く

2 日本文化

- ・古典の授業で「む」という助動詞について学ぶ → 「婉曲」という意味があり、はっきりと言わない表現のことだと学ぶ → 平安時代からはっきり言わない文化があったことを知り驚く

3 日常

- ・和食は出汁が大事だと知る → 今はインスタントだしの素を使えば簡単
- ・作れる料理 ~ だし巻き卵・肉じゃが・寿司・味噌汁・茶碗蒸し

4 おもてなし

- ・和食の店に行く 和服を着た店員さんが箸で料理を取り分けてくれた ~ 器を左手に持ってから箸を右手で取り上げ、左の小指に箸先をのせて箸を持ち替える所作が美しかった

以上の例は、P.12 の **K 外国語大学** の出願を想定したものです

ワークシート 2a 現在の調査・書き出し

目標に関連して「現在取り組んでいること」を書き出してみる

進学を意識して、現在（またはこれまでも）取り組んでいること

整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

この例は、**D大学工学部**（私立）の出願を想定したものです

■ D 大学工学部のアドミッション・ポリシーと求める人物像の一部

産業の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、その基礎知識および応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上および学習目標の達成を支援し、広く社会および産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的としています。このため、次のような学生を求めています。

- ・モノづくりに興味をもち、積極的に取り組む姿勢と意欲をもっている人
- ・持続可能な社会の形成に貢献したいと思っている人
- ・幅広い分野の技術者として活躍したいと考えている人
- ・科学技術を身に付けた教師（数学、理科、工業、情報、技術など）になりたいと考えている人

建築学科進学のために

学校での学習 文系理系どちらも重視する

- ・物理 特に力の分野
- ・数学 ベクトルなど建築に関わる部分を特に
- ・地理 都市の成り立ちや計画などの知識を深める

日常での学習

- ・建築の本を2週間に1冊読む
- ・建築関係の知識を増やす動画をネットで観る
- ・建築基準法の基本的な内容をチェックする
- ・建築に関係する法律がどれくらいあるか調べる

環境と建築の関係

- ・環境に優しい建築の具体例を調べる
- ・近くにあれば行って見て実物に触れる
- ・東京オリンピックに関係する建築の移り変わりを調べる～環境や費用などの面から
- ・私の街の都市計画について調べながら、計画と現実の違いを実際に確かめる
- ・コンクリートはどれくらいもつのか・今あるビルの寿命についてはどうか

趣味

- ・街の珍しい建築を見て回る
- ・面白い建築の写真を撮ったらネットにアップしてその建築に興味のある人の意見をきく
- ・日本の木造建築にも注目する
- ・古い洋風建築を見学して現代建築との違いを観察する

CAD

- ・CADO、CAID、CAADなどについて知る
- ・コンピュータでの設計について知る
- ・できれば実践してみる

SDGsについて

- ・建築素材と環境問題について
- ・ビルの屋上活用について調べる 太陽光発電や屋上農園などでの建築活用の方法について

ワークシート 2b 現在の調査・深める

書き出した「現在」の取り組みから調査すべきことを定め、結果を記す

不明瞭な点など 【2a】で曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

この例は、**D大学**工学部（私立）の出願を想定したものです（P.44 参照）

1

- ・建築基準法以外にどんな法律があるか
- ・その中身はどのようなものか

2

- ・環境に優しい建築とは具体的にどのようなものか

3

- ・C A D 関係のソフトにどのようなものがあるか
- ・買うことができるか・使いこなせるか

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

1

- ・建築関係の法律がとて多いことがわかった
- ・「建設業法」「都市計画法」「消防法」「浄化槽法」「水道法」「屋外広告物法」「景観法」「廃棄物処理法」「道路法」「文化財保護法」など多数 きりがないので少しずつ調べるようにする

2

- ・環境配慮建築の存在を知った
- ・このような建築はコストが大きい・増やすためには費用をおさえないといけない・土地の問題もある・今のところ解決は難しい

3

- ・C A D D（コンピュータ支援設計と製図）、C A I D（コンピュータ支援工業デザイン）、C A A D（コンピュータ支援建築設計）の違いがわかった。
- ・C A A D についてフリーソフトがいくつかある・まず☆☆☆☆と△△△の2つを試してみる。

いよいよ「大学」の調査

何を学び、体験するために進学するのか



再確認・大学で学ぶということ

すでに書いたことですが、大切なことなので繰り返します。

大学で学ぶことは、高校までとは大きく異なります。たとえば「歴史」。「日本史」でも「世界史」でも、基本的にはすでに誰かが研究し、長い年月を経て「定説（大方の人が正しいと認めている説）」となったものを学び（おぼえ）ます。歴史が好きな人は世の中に少なくありませんが、中には細かい武将の名を信じられないくらいよく知っている人がいます。大学でそういった世界にどっぷりつかるとかというところではありません。

まだ知られていないことを知ろうとしたり、「定説」に揺さぶりをかけたりするのは、高校までで身につけた知識はそのための基本として必要なものであって、それ自体が目的なのではありません。

次のような記事を見たことがありますか。

■アメリカの生態学専門誌『Ecology』が、日本の小学生が第一著者である論文を掲載■

小学6年生のSさんは、この論文の中でコガネムシ科の甲虫であるカブトムシの習性に言及。日本国内のカブトムシは夏、日没後に現れてクヌギの木の樹液を吸い、夜明けにはいなくなる……これが今までの定説だった。しかし、Sさんの研究によって、その常識は大きく覆されることになった。

Sさんが、カブトムシの調査を始めたきっかけは、幼少期の体験だった。

キャンプで夜を待ってカブトムシを探したのに一匹も捕まえない。庭のシマトネリコ（樹木の名）には、なぜか昼間もカブトムシが多く集まっていた。不思議に思い、調べたのがきっかけという。

小学4年生のとき自由研究として、シマトネリコとカブトムシの関係を調査。庭のシマトネリコに来るカブトムシの数を1日数回、毎日数えたり、非常に固いといわれるシマトネリコの固さを調べるためにやすりで削ったりと、さまざまな実験を行った。

そして夏休みの終わり、カブトムシの専門家であるY大学のK講師にメールで相談。K講師からアドバイスをもらい、次の夏休みにはカブトムシの個体それぞれに番号をつけてより詳しい研究を行った。だいたいのカブトムシは、シマトネリコ以外の木では、夜に増え、朝前の3時くらいにはかなり減ってしまうが、シマトネリコの木には夜に来て朝、半数近くが残っていた。

この研究は、すぐに社会に貢献できるかどうか分かりません。しかし、「研究」というものの本質の一部をよく表しています。基本編では調査内容として「未来②：社会への貢献」をあげましたが、学部によっては「それがすぐ何かに役立つ」とは限らない分野もあります。学部でいうなら文学部（文学・哲学・歴史など）や理学部（数学・物理学など）に多く見られますし、カブトムシの研究（理学部の生物学科でしょう）も似たような性格を有します。

それではいけないのかというと「今すぐ役に立つ必要はない」ともいえますし、歴史的な発見でも、当初は使いみちがなかったようなこともあります（ガリレイやニュートンの業績など、驚くべきものと思った人はいても何の役に立つのかといわれて当時答えられた人はほとんどいませんでした）。

もし、あなたの研究テーマが「役に立つかどうか分からない」ものであったら、それはそれでもかまいません。無理に役立つふりをしなくても「何の役に立つかわからないが、世界に新しい知識を加えたい」でよいこともあります。

大学の価値は「人」と「環境」にあり

専門家が後継者を育てる場であり、そのための人と施設を備えるのが大学

小学生の事例でもわかるように、「研究」そのものはいつ・どこで・誰が行ってもよいものです。しかし、同じ事例に「講師の手助け」があったことも忘れてはなりません。研究したことが単なる思いつきで終わってしまわないように、正しい手順をふんで発表することが必要です。大学は、専門家について「方法」を学ぶ場です。研究の最先端にいる世界最高の頭脳の一人に直接学ぶことさえあります。学生がテニスの世界王者や一流小説家に弟子入りすることの難しさを考えると、大学という場の価値の一端が想像できるでしょう。大学はまず、専門家が後継者を育てる場所なのです。

もちろん「場」、環境も大切です。学部によって異なりますが、図書館などの「資料」であったり実験実習のための設備であるなど、大学が学生に提供してくれる環境も重視すべきです。そして、環境という面では同じ分野の研究を志す仲間が存在も欠かせません（この点が一番重要だったという人もいます）。

大学の調査は、以上のような人と環境の総合的な視点から進めるべきです。



▶入学したら……「話が違う？」

高校と大学の学ぶことの違いに「あれ？」となる事例をあげます。「心理学」について、性格判定や心のケアのようなものを期待する学生が多数。しかし、入学してみると「小生物で実験して記録して計算してばかりだった」となったり……。心理学の土台が統計学である故です。「数学」は、高校では計算して解くことが主流ですが、大学では計算より「この定理が完全に成り立つか証明する」ような論理学的性格が強まります。ある卒業生は「計算が好きな人は工学部のほうが向いている」とコメントしました。

学部・学科の調査のあり方

「その学部」何を学ぶの？……が増えた時代に

増える一方……難しい学部選び

「学部」は、大学の基本単位です（異なる名称を用いることも）。多くの場合、学部は学科に分けられます。さらにコースや専攻などに細分化される場合もあります。多くの大学は学部単位で学生を募集します。

古くから多くの大学にある学部は「法学部」「文学部」「経済学部」「経営学部」「商学部」「教育学部」「理学部」「工学部」「医学部」「芸術学部」などです（西洋の多くの大学にはキリスト教の研究・教育機関「神学部」があります）。学部の種類は増え続けています。一文字でも異なる（例：文学部と人文学部）ものを別の学部とみなすと、全国で600種類以上あるようです。実質的にはそんなに多くはないというものの、探すのが難しいのは事実です。

近年「国際」や「人間」「情報」などを学部名に加える事例が増えています。「何をするのかわかりにくい」とみることもできますし、既存の学問領域に区分できないようなものごとを学ぶともいえます。

専門化志向と総合化志向

旧来の学部＞学科＞専攻のような分野分けは、「専門分野はこれ」とわかりやすくなっていました。かなりの割合で「一日も早く専門的分野について学びたい」「私は建築学科なので、哲学や歴史は不要」のように考える学生がいます。この傾向に大学側が対応したするケースも多数あります。一理ありますが、全面的に正しいとまではいえません。

かつて数多くあったのに、絶滅寸前と言われているのが「教養学部」という存在です（東京大学、埼玉大学、国際基督教大学など全国に七つ）。これは、真の専門的研究は大学院（大学卒業者が進学する教育機関）が行うべきで、大学の学部はより幅広い研究姿勢を保つべきである、という考えから設置されています。しかし「絶滅寸前」といわれるのは、先ほどのような学生の「専門化志向」のため、人気が低下しているからです。また、近年増えている新設学部の中には一見して何を研究するのか（時には文系なのか理系なのか）さえわからないようなものもあります。たとえば「共生科学部」「現代マネジメント学部」「情報フロンティア学部」「総合人間学部」……このような学部には、調べれば具体的な内容が明らかになる場合と、はじめから「研究分野を特定しない」方針場合があります。

まぎらわしい・わかりにくい・曖昧である……というのは一般に、よい意味で使われません。本書でも「もっと具体的に」と何度も強調しています。しかし、このような現象については一度じっくり考えてみる価値があります。

「学部・学科」「教科・科目」は何のためにある？

「専門化⇔総合化」の二つのベクトルを紹介しました。そもそも「専門化」はなぜ必要なのでしょう。35ページにも書きましたが「サッカー」というテーマでもあらゆる学部が関連付けられます。たとえば「感染症」という問題は生物学だけで、医学だけで、法学だけで解決できるのでしょうか。不可能です。こう考えると、問題によっては全世界の各専門家の知見を総動員しなければ解決などできないという事実がわかります。

ではなぜ、総合的な学問が専門的な分野に分けられたのでしょうか。そうしなければ深めることができないほど、近現代の学問諸分野は複雑で難しいものになっているからです。学部・学科などによる「専門化」はやむを得ずそうしている面もあるのです。高校までの「教科・科目」も同じです。英語を使えるということは、英語によって政治経済を理解し、数学も使いこなすことができるのが当然の目標です。ただ、そこまで広げるとハードルが高くなりすぎるので、学ぶ範囲を限定しているのです。

以上のように、本来「専門分野だけできるのがよい」という考え方は正しくありません。しかし、現代の学問において、ある程度の専門化はしかたのないことです。みなさんには、この「しかたない」という感覚を忘れずにいてほしいのです。「専門以外は何も知らないでよい」ではなく、「幅広い視野が必要だ」と意識してください。

「専門化」の行き過ぎへの警戒もあって、大学入学共通テストは今後、教科・分野横断的な性格をさらに強めます。問題解決を目標とした「学際（異なる学問分野にまたがる研究）」ということばも近年よく使われます。

「専門・総合」の光と影

「専門化」はその分野を徹底して深められる一方、視野の狭さが問題になります。「総合化」は問題解決の本道ともいえますが、注意しないと「何でも知っているようで本質的には何も知らないようなもの」になりかねません。

バランスを意識しつつ、どちらの道がより自分に適しているか……大学の調査を通じて、ぜひ「学ぶこと」そのものの視点を深めてください。

実は、その思考過程そのものも志望理由書の重要な素材になるのです。

▶「具体的なことは大学に入ってから考える」はあり？……①

今、はっきりしたことは決められない……調べれば調べるほどあれもしたいこれもしたいと迷いが深まる……。このようなこともあるでしょう。本書の基本方針は「具体的にやる」です。しかし、ありもしない目標をでっち上げるのはいけません。決まっていないことは正直に告白すべきです。ただし、「あれかこれか」で迷っているのならきちんと書けば問題ありません。

「考えていない」ではなく「考えた結果、検討課題が残っている」であるべきです。



重要

広い意味での「課外活動」調査のあり方

何を学び、体験するために進学するのか

大学での学びの場は「講義」だけとは限らない

学生の本業である学部・学科での学問に続いて、「課外活動」の調査も重要になることがあります。「部・サークル」や、学部内にある独自の研究団体などにはプロ顔負けの成果を出している例も少なくありません。学校のホームページほか、ネットなどで積極的に検索したり、直接見学したりするのもよいでしょう。志望理由書の重要素材になる可能性を秘めています。大学卒業後、この課外活動で得たことが最も記憶に残っているという人も数え切れないほどいます(高校でも同じですが)。

ただし、注意点もあります。まず、いかに興味深くても本業と無関係なものは志望理由書には使うべきではありません。心理学を専門に学ぶのに、スキー同好会の話題を書くのはいかにも場違いです。その気になれば「スキーヤーの心理学」のような関連付けも可能ですが、わざわざそうしなくても専門分野で書くことはいくらかでもあります。次に、「課外」はあくまでも学生の本業を補うものであることを忘れてはいけません。情報学部の志望理由書が、学部での研究についてのほんの少しの記述と圧倒的ボリュームの「プログラミング部」への期待であるとしたら、やはりアンバランスです。志望理由書を読むのは志望学部の教職員です。「部活」中心の意思表示では違和感を与えるばかりです。

以上をふまえて調べはじめると「ハマる」ほど面白いものに出会うことがあります。志望理由書に直結しなくても、一生の財産になるかもしれません。調査がおろそかになってしまわない範囲でどんどん深めてください。



「そこでなければできない」と「そこでするのがベスト」

本業としっかり結びついた課外活動は、研究を一層深める効果があります。教員や設備に次いで、志望理由の重要ポイントになるものです(繰り返しますが、これが最重要項目にならないよう注意してください)。結局、なぜその大学・学部を志望するのかといえば「そこでなければできないこと」があるからです。そこまで強くなくても「そこでするのがベスト(または、限りなく近い)」であるからです。

この原理をしっかりつかんでいけば、志望理由書の核になる部分はできあがります。「この大学に模試の偏差値では難しい」状況でもかまいません。意欲も含めた大学・学部との適性を総合的に判断しようというのが総合型選抜の趣旨なのです。具体的な調査に裏付けられた「ここしかない」という強い確信が何より重要です。

まずはたくさん集め、並べ、関連付けてみる

次のページから、実際に調査し、まとめる行動に移ります。つい、きれいに整理しなければならぬと考えがちですが、そうとは限りません。雑多なメモ書きの集合でもかまいません。わかったこと、注目したことなどを単語レベルで書き連ねてもよいのです。29ページなどで紹介した「メモリーツリー」のような書き方もよいでしょう。

文章になる前の混沌とした未整理なことばの集合を作成し、できあがったらじっくり眺めてください。これまでに気づかなかった新しい「情報の関連性」がひらめくかもしれません。

35ページに記したように、一見無関係なものごとにも、視点を変えれば強い関係が認められます。大学で学ぶことが、将来希望する職業に直結しなければならないというきまりもありません。

たとえば、ルネサンス期イタリアの大芸術家、レオナルド・ダ・ヴィンチについて研究したいとします。芸術学部や文学部の芸術史学科などが結びつきやすい進路です。しかし、ダ・ヴィンチの生涯は謎につつまれていますし、ある作品がほんとうに彼の作品であるか、未だに決着がついていない事例も少なくありません。この場合、その作品に使われた「絵の具」や「紙」「キャンバス(画布)」などの材料分析によってダ・ヴィンチの本当の作品かどうか判定する方法が試みられます。そうすると、工学部化学科で学ぶことも決して遠回りではありません。英国の劇作家シェイクスピアにも「彼の作品か?」についての未解決の問題があります。この研究の一般的なコースは文学部英文学科ですが、異なるアプローチもあります。彼の作品で用いられている「語彙」の分布を統計的に分析して、その「クセ」をつかむことで、別の人物の作品かもしれないという仮説をたてることができます。これは「計量文献学」と呼ばれる手法です。この研究をしたいのなら、統計学部やデータサイエンス学科を志望するのも正しい選択です。

要するに、道は一つとは限らないということです。

雑多であっても多様な情報を眺め考えることで、意外性に満ちた研究イメージが生まれるかもしれません。「一見無関係に見える分野の組み合わせ」は、イノベーション(革新・変革)の原動力です。たとえば、創造性開発に有効な「KJ法」(東京工業大名誉教授、川喜田二郎氏のイニシャルによる命名)があります。これは、調べた項目の語句をそれぞれカードに書き、平面に並べながらグループ化して関連させるという方法です。新しい関係の発見があったら、それ自体に価値がありますし、志望理由書にもそのまま用いることができます。

▶「具体的なことは大学に入ってから考える」はあり?……②

左に書いたことにつけ加えます。「今、将来についてはっきりしたイメージはない。それを大学で学びながら明確にしたい」という志望理由はありえます。ただし、これが成り立つかどうかは、志望する学部・学科によります。「総合化」志向の強い学部はそのような学生を積極的に受け容れる意志があります。一方、学科まで特定して志願するのに「将来はこれから」というのは弱いと言わざるを得ません。せめて、「大体の方向は決まっている。その具体化のために大学で学ぶ」と示すべきでしょう。



ワークシート 3a 未来①調査・書き出し

「大学で取り組みたいこと」を書き出してみる（右ページも）

将来の希望・AP も意識して、大学で取り組みたいこと

整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

SAMPLE
version

注 意 点

ここで書き出すことは、ストレートな考えや調査結果等です。しかし、常に「アドミッション・ポリシー」などに示された、「求められる人物像」との関係を意識してください。

SAMPLE version

ポイント

はっきりしないことや不明瞭なことがあったら《不明：〇〇について》のようなメモを書き残しましょう。それが調査の対象であることを忘れないようにするためです。



ワークシート 3b 未来① 調査・深める

書き出した「未来①」から調査すべきことを定め、結果を記す

不明瞭な点など 【3a】で曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

SAMPLE
version

注 意 点

ここで書き出すことは、ストレートな考えや調査結果等です。しかし、常に「アドミッション・ポリシー」などに示された、「求められる人物像」との関係を意識してください。

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

SAMPLE
version

ポイント

はっきりしないことや不明瞭なことがあったら《不明：〇〇について》のようなメモを書き残しましょう。それが調査の対象であることを忘れないようにするためです。

ワークシート 3a 未来① 調査・書き出し

「大学で取り組みたいこと」を書き出してみる

将来の希望・AP も意識して、大学で取り組みたいこと

整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

留学したい

なぜ？

英語を日常語として使いたい

どんな道があるか？

1: スーパー IES プログラムに参加したい

→「英語」で学ぶ、語学力をつける

→英文法を英語で学ぶ

→英語でディスカッション

→ネイティブの先生による授業

→アカデミックスキルが養える

→専門知識を英語で学ぶ

2: 語学&インターシップ留学へ行きたい

→留学先の大学でインターンシップ準備教育を受け、ディズニー
ワールドリゾートでインターンシップに参加

→スピーキング力・ホスピタリティ・観光学

→世界中の人との交流

3: 国際関係コースに入る

→外交関係・エアポートビジネス

4:「グローバル・コモンズ結（大学の寮）」に入居したい

→多国籍の人たちと日常生活をともにしたい

→多くの文化に触れたい

→常に英語を使う環境にいたい

★留学に行かなくても日常で英語が使える

★親元を離れた生活でも一人暮らしではなく仲間とともに暮らす安心感

以上の例は、P.12 の **K 外国語大学** の出願を想定したものです

ワークシート 3b 未来① 調査・深める

書き出した「未来①」から調査すべきことを定め、結果を記す

不明瞭な点など 【3a】で曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

1: スーパー IES は何の略?

2: アカデミックスキル

3: インターンシップ

4: ディズニーワールドリゾートはどこにある?

→誰でも参加できるのか?

→資格は?

5: ホスピタリティとは?

6: 「グローバ・コモنز結」への入居方法

7: グローバル・コモنز結の施設は?

→部屋は?

→行事があるか?

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

1: Intensive English Studies(集中的な英語の学習)

2: リサーチペーパーの書き方・プレゼンテーションの方法・論理的、批判的思考力をつけるなど、留学に行った先での学習に困らない能力

3: 職業体験

4: フロリダにある。カリフォルニア大学で学ぶ。
→参加資格などはさらに調査

5: おもてなし、心のこもったおもてなし

6: 選抜・入寮目的の書類提出→面接
競争率が高い

7: 施設 ダイニングキッチン(自炊可能)・スタディールーム・コンピュータールーム・リビングルーム・洗面所・シャワールーム

すべて一人部屋に必要な家具はある

行事を企画する「レジデント アシスタント」という役割を担う学生がいる(なりたい)

以上の例は、P.12 の **K 外国語大学** の出願を想定したものです

ワークシート 3a 未来① 調査・書き出し

「大学で取り組みたいこと」を書き出してみる（右ページも）

将来の希望・AP も意識して、大学で取り組みたいこと

整理しなくてよいので自由にメモを書いてください。

以下の例は、**K大学理学部**（私立）の出願を想定したものです

次に、同大学のアドミッション・ポリシーの要約を記します。

入学までの学習を通じて、大学での学びに必要な数学や物理学に関する学力を有していること
▶宇宙物理学や気象学などの学問分野に関心を有していること▶ディプロマ・ポリシーに掲げる素養を有する人材に成長することを目指し、入学後にその実現に意欲を有していること▶入学者選抜は、本学のアドミッション・ポリシーで定めたとおり、多様な方法を用いて実施します。特徴的な入学者選抜として、入学前に取り組んだ宇宙物理学あるいは気象学に関連する課題研究等の成果の提出と口頭発表等の成績をもとにした総合型選抜を実施します。

天体観測

私立大学としては最大級の望遠鏡がある
これを利用して観測を行う

機器作成

受け身で終わらずに能動的に関わる
最初は「遮光」機能をもつ機器を作る
赤道儀も自作してみたい（工学部の設備使用が必要？）

NASAとの提携

チャンスを最大限活かしたい

JAXAとの提携

実際に訪問したい
最先端の専門的な知識をどんどん吸収したい

国立天文台との提携

野辺山の電波望遠鏡の見学や実体験プログラム

学部・学科で

K教授のゼミに入る

動画作成の手伝いもしてみたい

できるだけ天文学と関係する工学の講義を受けたい

工学部との交流があるので、工学部の講義にも参加したい

課外活動

天文部に入る

これで望遠鏡をさらに活用できる

部のOBの人脈で天文関係へのインターンシップが可能

部のOBの人脈で関係企業への就職も有利になりそう

海外へ

「すばる望遠鏡」体験ツアーに参加したい

ハワイ島高地の透明度の高い空気を通して観る星空を体験したい

もっと詳しい内容をオープンキャンパスで調べる

ワークシート 3b 未来① 調査・深める

書き出した「未来①」から調査すべきことを定め、結果を記す

不明瞭な点など 【3a】で曖昧だったことや、もっと具体的にすべきことを書いてください。

- 1 工学部の施設は利用できるのか
- 2 K教授のゼミに入るための条件は
- 3 野辺山体験の条件と費用は？
- 4 すばる望遠鏡体験の条件と費用は？

調査結果 調査の結果をメモしておきます。

- 1 手続きを踏んで行えば問題なさそう
- 2 今のところは、希望すれば入れそう
- 3 希望すれば参加できる・交通費自己負担だがあとは無料
- 4 毎年数名・1年からの関係講義の成績が影響する
だいたい☆万円くらいが交通費と宿泊費
- 5 その他
施設は学部に関係なく空いてさえいれば自由に利用できる
OB の人脈が就職にはかなり有効

以上の例は、**K大学理学部**（私立）の出願を想定したものです

同大学のアドミッション・ポリシーの要約は 58 ページに。